



	今	回	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	、	3	カ	月	後	の	4	月	1	日	か	ら	の	新	
	商	品	発	売	開	始	に	あ	わ	せ	て	運	用	が	開	始	さ	れ	る	。	そ	の	た	め	、
	本	番	1	カ	月	前	の	3	月	上	旬	か	ら	2	週	間	、	総	合	テ	ス	ト	を	実	施
	し	、	そ	こ	で	問	題	が	な	け	れ	ば	3	月	中	旬	か	ら	、	本	番	環	境	の	設
	置	及	び	本	稼	働	開	始	の	た	め	の	移	行	作	業	準	備	に	と	り	か	か	る	。
	今	回	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	で	は	以	下	の	こ	と	を	本	稼	働	開	始	の	可	否
	判	断	の	材	料	と	し	た	。																
	①	総	合	テ	ス	ト	の	結	果																
		→	品	質	が	確	保	さ	れ	て	い	る	か												
	②	ユ	ー	ザ	へ	の	最	終	操	作	説	明	と	訓	練	結	果								
		→	ユ	ー	ザ	側	の	受	け	入	れ	準	備	が	で	き	て	い	る	か					
	③	デ	ー	タ	移	行	リ	ハ	ー	サ	ル	結	果												
	④	本	稼	働	開	始	に	伴	う	移	行	作	業	手	順	書	の	作	成	状	況				
		→	本	稼	働	開	始	直	前	に	行	う	移	行	作	業	の	手	順	に	問	題	は	な	
			い	か	、	ま	た	作	業	不	備	の	場	合	の	リ	ス	ク	対	応	や	不	備	が	
			発	生	し	た	際	の	取	り	決	め	に	問	題	は	な	い	か						

2.		情	報	シ	ス	テ	ム	の	本	稼	働	開	始	に	つ	い	て										
2	.	1	本	稼	働	ま	で	に	解	決	で	き	な	い	と	認	識	し	た	課	題						
		プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	も	終	盤	に	差	し	掛	か	り	、	総	合	テ	ス	ト	フ	ェ	ー		
		ズ	の	中	盤	で	問	題	が	発	生	し	た	。	解	約	処	理	の	一	部	の	ケ	ー	ス	に	
		お	い	て	解	約	返	戻	金	の	金	額	に	誤	り	が	あ	る	こ	と	が	発	見	さ	れ	た	。
		原	因	は	数	理	計	算	上	の	算	出	式	を	誤	っ	て	認	識	し	て	い	た	か	ら	で	
		あ	る	。	レ	ア	ケ	ー	ス	で	は	あ	っ	た	が	、	金	額	に	関	連	す	る	不	備	は	
		致	命	的	で	、	当	然	ユ	ー	ザ	の	要	件	を	満	た	し	て	お	ら	ず	、	品	質	の	
		確	保	も	で	き	て	い	な	い	こ	と	と	な	る	。	単	体	テ	ス	ト	や	結	合	テ	ス	
		ト	で	は	、	こ	の	テ	ス	ト	ケ	ー	ス	を	洗	い	出	せ	ず	に	実	施	し	て	い	た	
		た	め	、	総	合	テ	ス	ト	を	実	施	す	る	ま	で	わ	か	ら	な	か	っ	た	。			
				こ	の	問	題	が	発	覚	し	た	の	は	、	総	合	テ	ス	ト	も	中	盤	に	差	し	掛
		か	っ	た	こ	ろ	で	あ	る	。	そ	の	後	、	前	述	の	原	因	を	追	及	す	る	ま	で	
		に	時	間	を	費	や	し	て	し	ま	っ	た	。	金	額	の	算	出	方	法	が	非	常	に	複	
		雑	か	っ	パ	タ	ー	ン	が	多	岐	に	渡	る	も	の	で	あ	っ	た	た	め	、	不	備	で	
		あ	る	箇	所	を	特	定	す	る	ま	で	に	時	間	を	要	し	た	わ	け	で	あ	る	。		

幸	い	、	こ	の	問	題	以	外	の	ケ	ー	ス	の	金	額	に	は	影	響	が	無	い	こ	と	
を	確	認	で	き	、	ま	た	他	の	機	能	の	総	合	テ	ス	ト	は	予	定	通	り	終	了	
し	た	。	し	か	し	、	こ	の	問	題	に	関	し	て	は	、	原	因	追	究	が	完	了	し	
た	と	こ	ろ	ま	で	で	3	月	中	旬	を	迎	え	て	し	ま	い	(	総	合	テ	ス	ト	が	
完	了	し	て	い	な	け	れ	ば	い	け	な	い	時	期	)	、	も	は	や	本	稼	働	予	定	日
ま	で	に	解	決	す	る	こ	と	は	難	し	い	状	況	と	な	っ	て	し	ま	っ	た	。		
2	.	2	対	応	策	の	検	討																	
	今	回	の	よ	う	に	、	大	詰	め	の	総	合	テ	ス	ト	で	問	題	が	発	生	し	、	
本	稼	働	予	定	日	ま	で	に	解	決	す	る	こ	と	が	難	し	い	ケ	ー	ス	で	は	、	
最	初	に	、	本	稼	働	の	延	期	が	可	能	か	ど	う	か	を	打	診	す	る	。	し	か	
し	、	今	回	の	場	合	は	、	4	月	1	日	の	新	商	品	の	販	売	開	始	と	い	う	
の	は	、	A	社	だ	け	で	な	く	、	販	売	代	理	店	各	社	に	も	ア	ナ	ウ	ン	ス	
し	て	い	る	た	め	、	状	況	的	に	本	稼	働	延	期	は	不	可	能	で	あ	る	。	そ	
う	な	る	と	、	次	に	考	え	る	こ	と	は	、	こ	の	課	題	を	抱	え	た	ま	ま	4	
月	を	向	か	え	本	稼	働	を	開	始	す	る	部	分	稼	働	が	可	能	か	否	か	で	あ	
る	。	具	体	的	に	は	、	課	題	解	決	ま	で	の	日	程	を	明	確	に	す	る	と	と	

も	に	、	影	響	範	囲	を	調	査	し	、	実	現	可	能	性	を	考	え	る	こ	と	で	あ
る																								
(1)	課	題	解	決	ま	で	の	日	程															
	原	因	追	究	ま	で	に	時	間	は	か	か	っ	た	が	、	課	題	を	解	決	す	る	方
法	に	つ	い	て	は	め	ど	が	た	っ	て	い	る	。	該	当	の	数	理	計	算	プ	ロ	グ
ラ	ム	の	誤	り	箇	所	の	修	正	し	、	金	額	の	数	値	チ	ェ	ッ	ク	を	行	う	。
但	し	、	そ	の	プ	ロ	グ	ラ	ム	の	計	算	結	果	を	利	用	し	て	、	画	面	・	帳
票	等	に	金	額	を	表	示	し	て	い	る	機	能	に	つ	い	て	も	確	認	テ	ス	ト	が
必	要	な	た	め	、	対	応	は	広	範	囲	に	わ	た	る	。	こ	れ	ら	の	事	情	を	勘
案	す	る	と	、	対	応	期	間	は	1	ヶ	月	間	必	要	と	な	る	。					
上	記	作	業	に	す	ぐ	に	と	り	か	か	れ	ば	、	4	月	中	旬	に	は	課	題	は	解
消	さ	れ	る	見	込	み	で	あ	る	。														
(2)	影	響	範	囲	の	調	査																	
	課	題	解	決	ま	で	の	期	間	が	明	確	に	な	っ	た	ら	、	続	い	て	影	響	範
囲	の	調	査	を	実	施	す	る	。	こ	の	影	響	度	に	よ	っ	て	、	対	応	策	は	大
き	く	左	右	さ	れ	る	か	ら	で	あ	る	。												

	今	回	の	ケ	ー	ス	で	は	、	4	月	か	ら	2	週	間	、	こ	の	問	題	を	抱	え	
	た	ま	ま	運	用	す	る	と	仮	定	す	る	と	、	該	当	ケ	ー	ス	の	解	約	の	請	求
	が	発	生	し	た	場	合	に	当	然	金	額	の	誤	り	が	発	生	す	る	こ	と	に	な	る
	こ	う	な	る	と	顧	客	や	販	売	代	理	店	に	対	す	る	信	用	を	失	墜	す	る	こ
	と	と	な	り	、	A	社	に	と	っ	て	そ	の	影	響	は	大	き	い	。					
	<b>(3)</b>	<b>対</b>	<b>応</b>	<b>策</b>	<b>の</b>	<b>検</b>	<b>討</b>																		
	以	上	の	分	析	結	果	か	ら	、	4	月	初	旬	か	ら	の	2	週	間	、	顧	客	よ	
	り	該	当	ケ	ー	ス	の	解	約	請	求	が	あ	っ	た	場	合	は	、	A	社	解	約	担	当
	部	門	よ	り	A	社	及	び	弊	社	関	係	者	に	連	絡	し	て	も	ら	い	、	各	担	当
	で	手	作	業	に	て	処	理	す	る	こ	と	に	な	っ	た	。	具	体	的	に	は	、	A	社
	数	理	担	当	者	が	、	手	計	算	で	金	額	を	再	計	算	し	て	各	担	当	に	連	携
	し	、	必	要	に	応	じ	て	各	担	当	者	は	再	計	算	後	の	金	額	を	用	い	て	顧
	客	及	び	代	理	店	宛	通	知	物	の	再	作	成	等	を	行	う	と	い	う	方	法	で	あ
	る	。	一	方	で	弊	社	は	連	絡	を	受	け	、	シ	ス	テ	ム	管	理	デ	ー	タ	の	更
	新	を	臨	時	処	理	に	て	行	う	。	も	ち	ろ	ん	、	A	社	関	係	者	に	は	事	情
	と	対	応	方	法	を	し	っ	か	り	と	説	明	し	、	こ	の	2	週	間	限	定	で	理	解





# 論文添削結果（通常）

2013.03.13 みんなのSE創研  
添削者：佐藤 創

## 【添削情報】

論文提出者：

問題 : 平成19年度 問2

## 【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

## [目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
  - (1) 添削結果の根拠について
  - (2) 講評の詳細
  - (3) 総評
5. 今後の学習に関するコメント

## 1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの概要
  1. 1 プロジェクト概要
  1. 2 本稼働開始の可否判断を仰ぐために用意した材料
2. 情報システムの本稼働開始について
  2. 1 本稼働までに解決できないと認識した課題
  2. 2 課題を残して本稼働を開始した場合の調査と対応策
    - (1) 影響範囲の調査
    - (2) 検討した対応策
3. 対応策の評価と今後の改善点
  3. 1 対応策の評価
  3. 2 今後の改善点

## 2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	プロジェクトの特徴、あなたの立場、求められる要件などを明記。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト概要、プロジェクト体制</li> <li>・工期、工数、契約内容、担当工程など</li> <li>・あなたの立場・役割</li> <li>・プロジェクトの制約事項・条件など</li> </ul> ⇒特に、今回の論文では本稼働を延期できない理由を記述する必要があるため、ここで伏線を張っておくことが望ましい。	
1. 2	①委託元の本稼働開始の可否判断を仰ぐために適切な材料を記述すること。 ⇒成果物の完成見通しだけでなく、システム利用部門や運用部門の準備状況なども勘案して材料を用意していること。具体的には、①システムの品質確保の状況、②利用者への教育実施の状況、③データ移行の状況 などがある。 ⇒プロジェクト特性を加味して、本稼働開始の可否判断を仰ぐために適した材料であることが判ること。	
2. 1	①本稼働までに解決できないと認識した課題を記述すること。 ⇒システムが動作できないようなクリティカルな課題ではないこと。 ⇒課題の影響が小さすぎないこと（課題に対する適切な対応策を問う問題であるため、影響範囲が小さすぎると論文として評価しにくいと考えられる）。 ②プロジェクトマネージャ自身が、本稼働までに解決できない課題であると認識した記述であること。 ⇒さまざまな状況を分析して、自ら適切な判断をしていること（くれぐれも客先からの指摘で本稼働までに解決できないと判明した、などという記述にはしない）。	プロジェクトマネージャが課題を抱えたまま本稼働を開始することを決定している論述が望ましい。  客先から本稼働開始を要請され

	<p>③業務都合で本稼働を延期することが難しいことを記述すること。 ⇒本稼働に踏み切らざるを得ない背景を記述すること。</p>	<p>たからやります、という受身のスタンスではなく、積極的に影響範囲を見切って、適切な対応策を実施する計画を立てて客先を納得・説得させて、本稼働に踏み切った、という流れが良い。</p>
2. 2 (1)	<p>①課題を残して本稼働を開始した場合の影響範囲を記述すること。 ⇒プロジェクトマネージャが主導で調査を進めた点を記述すること。プロジェクトマネージャの視点での工夫を記述すること。プロジェクトマネージャとして適切な問題分析力があることが伺える論述をすること。 ⇒調査した影響範囲には、具体的には、①課題解決までの日数、②影響を受ける部門・利用者・業務などがある。</p>	
2. 2 (2)	<p>①影響範囲や課題の内容に適した対応策を記述すること。 ⇒具体的には、①一部の要件が実現できていない機能の代替策と運用手順を提供、②利用者への教育が不十分な部門を支援するためのヘルプデスクを用意、③システムの運用部門が機能するまでの暫定的なシステム運用支援チームの設置、④データの移行が完了するまでの当面の対応ルールを利用部門や業務単位に設定などがある。 ②プロジェクトマネージャとして適切なプロジェクト運営能力があることが伺える論述をすること。 ⇒ステークホルダの支援や協力が得られていること、問題対応能力があることがわかる論述をすること。</p>	
3. 1	<p>・対応策の簡単な顛末と、評価すべき点について記述すること。</p>	
3. 2	<p>・課題や対応策に関連する改善点を記述すること。</p>	

### 3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
B	合格水準にあと一步である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一步である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	B	合格水準にあと一步
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること</li> <li>・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと</li> <li>・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること</li> </ul>	A	合格水準にある
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること</li> <li>・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること</li> <li>・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること</li> </ul>	B	合格水準にあと一步
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文としてふさわしい文章表現であること</li> <li>・文章の内容が理解しやすいこと</li> <li>・助詞などの用法に誤りがないこと</li> <li>・誤字脱字がないこと</li> </ul>	A	合格水準にある

## 4. 講評

添削者が考える講評について示します。

### (1) 添削結果の根拠について

非常に評価の高い論文でAランクに近い内容でしたが、今回はいくつかの指摘によりBランクとさせて頂いております。評価ランクがBである理由は以下です。

#### 1. 題意の適切な盛り込み

題意については適切に論文に盛り込まれており、大きく問題となる箇所はございません。

1箇所だけ、プロジェクト概要として適切ではない内容について論述している箇所がありました。

①設問Aでは、その後の論述に関係のない内容は述べないほうが良い。

#### 2. 論理性

論文全体を通じて非常に丁寧に論述がされており大変評価できると考えます。また、プロマネの考えや根拠の論述もしっかりと述べられておりました。特に問題となる箇所はございません。

#### 3. プロマネの創意工夫

全体的に丁寧な論述がなされていることからプロマネの存在感のある良い論文であったと感じます。ただし1箇所だけ、プロマネの視点からの創意工夫がやや不足していると感じる箇所がありました。

①代替案の内容だけでなく、代替案が円滑に運用されるための工夫をプロマネの視点から述べてほしかった。

#### 4. 文章表現

大きく問題となる箇所はございませんでした。数か所だけ、論述対象の文言が具体的に何を示すのかが読み取りにくい箇所がありました。

①修正をすると読み手が理解しやすくなる箇所がある。

(指摘の詳細は本添削結果の末尾に添付しているコメントを参照下さい)

以下に詳細の講評と、総評を示します。

## (2) 講評の詳細

詳細講評については、論文の流れに沿って設問アから順に説明させていただきます。説明の内容が、(1) 添削結果の根拠 のいずれに相当するのかを各説明に示します。ただし、文章表現に関する指摘は最後にまとめて行います。

なお、講評中で例文を示すことがあります。あくまでも参考までとして頂ければ幸いです。例文をそのままご利用されること自体には全く問題はございません。それによる「文字数の配慮」、「論文の流れとの整合性」等々につきましては十分ご考慮いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

(なお以下の指摘以外の軽微な指摘については、末尾にコメントを記載しておりますので、併せてご確認をお願い致します)

### (ア) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：①]

「1. 1プロジェクトの概要」においては、簡潔に必要な事項を述べることが求められています。本論文では、直接的には論述が求められていない「筆者の関連する組織の商品（変額個人年金）の情報」について述べられておりました。もちろん、この内容が論文内容を理解するうえで必要であるならば論述することは妥当なのですが、本論文においては変額個人年金という金融商品についての理解がなくとも、その後の論文内容を理解することができたと考えます。そのため、この金融商品についての論述は不要だと判断致します。その後の論述に関連の少ない内容は論述する必要はございませんので、ご確認をお願い致します。

※なお現行の試験制度では、1. 1節では「プロジェクトの概要」ではなく、「プロジェクトとしての特徴」を述べるように題意が変わっている点にご留意ください。プロジェクトの概要はもちろん、システムの概要、筆者の組織の概要などの論述は、明確に題意から外れるということが示されておりますので、本番試験の際にはご注意ください。

### (イ) [評価項目：プロマネの創意工夫 指摘番号：②]

「2. 2対応策の工夫」において、システムの欠陥による業務フローの代替案について論述がなされております。しかし、この代替案を混乱なく実行するためのプロマネの視点からの工夫の論述が不足していると考えます。

本論文では、代替案の内容自体の評価もされますが、それよりも代替案を混乱なく遂行するために、プロマネの視点からどのような工夫を行ったのか、という観点から評価が行われます。具体的には、A社の利用部門が代替手順を誤らずに実行できるようにマニュアルを作成した上でユーザ・トレーニングの期間を確保したとか、代替案のケースか否かの判断が難しい場合はすぐに問い合わせができるように暫定のヘルプデスクを設けたりするといった工夫です。こういった工夫を行うことで、代替案の採用による混乱を回避できると考えます。本論文で述べられているのは代替案の内容だけであり、その代替案を混乱なく円滑に実行するためのプロマネの視点からの論述が不足していると考えます。この点について追記することが必要だと考えます。

### (ウ) [評価項目：文章表現 指摘番号：①]

指摘箇所は添削結果末尾のコメントをご参照下さい。

### (3) 総評

以下に本論文を振り返り、良かった点や指摘のまとめをさせていただきます。

1.1 節、1.2 節はおおよそ問題はなかったと考えます。1.1 節では題意に沿った論述を行う点を指摘させていただきました。

2.1 節については品質問題について、本稼働開始までに間に合わない理由の説明を丁寧に述べていたため理解しやすかったと考えます。問題となる箇所はございません。2.2 節も丁寧に論述されておりましたが、プロマネの創意工夫が不足していた点について指摘をさせていただきました。それ以外は説得力があったため評価できると考えます。

3.1 節、3.2 節も特に問題となる箇所はございません。いくつか文章表現に関する指摘をさせて頂いておりますので、その点については文末のコメントをご参照ください。

## 5. 今後の学習に関するコメント

題意の把握がしっかりとできておりました。また論述内容が丁寧であり、プロマネの考えがしっかりと述べられておりました。この点から非常に評価の高い論文であると考えます。評価ランクは今回はBランクでしたが、ほぼAランクに近い内容であったと考えます。

今後は他の問題においても題意の把握や、丁寧な論述ができるように心がけて学習を継続されれば、本番試験でも問題なく合格水準の論文を書くことができると思います。

以上、添削結果のご確認の程よろしくお願い申し上げます。  
ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けると幸いです。

以上



	今	回	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	、	3	カ	月	後	の	4	月	1	日	か	ら	の	新	
	商	品	発	売	開	始	に	あ	わ	せ	て	運	用	が	開	始	さ	れ	る	。	そ	の	た	め	、
	本	番	1	カ	月	前	の	3	月	上	旬	か	ら	2	週	間	、	総	合	テ	ス	ト	を	実	施
	し	、	そ	こ	で	問	題	が	な	け	れ	ば	3	月	中	旬	か	ら	、	本	番	環	境	の	設
	置	及	び	本	稼	働	開	始	の	た	め	の	移	行	作	業	準	備	に	と	り	か	か	る	。
	今	回	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	で	は	以	下	の	こ	と	を	本	稼	働	開	始	の	可	否
	判	断	の	材	料	と	し																		
	①	総	合	テ	ス	ト																			
		→	品	質	が	確																			
	②	<u>ユ</u>	<u>ー</u>	<u>ザ</u>	へ	の	最	終	操	作	説	明	と	訓	練	結	果								
		→	ユ	ー	ザ	側	の	受	け	入	れ	準	備	が	で	き	て	い	る	か					
	③	デ	ー	タ	移	行	リ	ハ	ー	サ	ル	結	果												
	④	本	稼	働	開	始	に	伴	う	移	行	作	業	手	順	書	の	作	成	状	況				
		→	本	稼	働	開	始	直	前	に	行	う	移	行	作	業	の	手	順	に	問	題	は	な	
			い	か	、	ま	た	作	業	不	備	の	場	合	の	リ	ス	ク	対	応	や	不	備	が	
			発	生	し	た	際	の	取	り	決	め	に	問	題	は	な	い	か						

## 【文章表現の指摘】

ここで述べているユーザとは、A社の利用部門のことを示しておりますでしょうか？それともA社のエンドユーザ（最終顧客）のことを示しておりますでしょうか？その点を読み手に理解しやすくなるように、一言補足説明を加えられるとよろしいかと思ます。

2.		情	報	シ	ス	テ	ム	の	本	稼	働	開	始	に	つ	い	て										
2	.	1	本	稼	働	ま	で	に	解	決	で	き	な	い	と	認	識	し	た	課	題						
		プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	も	終	盤	に	差	し	掛	か	り	、	総	合	テ	ス	ト	フ	ェ	ー		
		ズ	の	中	盤	で	問	題	が	発	生	し	た	。	解	約	処	理	の	一	部	の	ケ	ー	ス	に	
		お	い	て	解	約	返	戻	金	の	金	額	に	誤	り	が	あ	る	こ	と	が	発	見	さ	れ	た	。
		原	因	は	数	理	計	算	上	の	算	出	式	を	誤	っ	て	認	識	し	て	い	た	か	ら	で	
		あ	る	。	レ	ア	ケ	ー	ス	で	は	あ	っ	た	が	、	金	額	に	関	連	す	る	不	備	は	
		致	命	的	で	、	当	然	ユ	ー	ザ	の	要	件	を	満	た	し	て	お	ら	ず	、	品	質	の	
		確	保	も	で	き	て	い	な	い	こ	と	と	な	る	。	単	体	テ	ス	ト	や	結	合	テ	ス	
		ト	で	は	、	こ	の	テ	ス	ト	ケ	ー	ス	を	洗	い	出	せ	ず	に	実	施	し	て	い	た	
		た	め	、	総	合	テ	ス	ト	を	実	施	す	る	ま	で	わ	か	ら	な	か	っ	た	。			
				こ	の	問	題	が	発	覚	し	た	の	は	、	総	合	テ	ス	ト	も	中	盤	に	差	し	掛
		か	っ	た	こ	ろ	で	あ	る	。	そ	の	後	、	前	述	の	原	因	を	追	及	す	る	ま	で	
		に	時	間	を	費	や	し	て	し	ま	っ	た	。	金	額	の	算	出	方	法	が	非	常	に	複	
		雑	か	っ	パ	タ	ー	ン	が	多	岐	に	渡	る	も	の	で	あ	っ	た	た	め	、	不	備	で	
		あ	る	箇	所	を	特	定	す	る	ま	で	に	時	間	を	要	し	た	わ	け	で	あ	る	。		

幸	い	、	こ	の	問	題	以	外	の	ケ	ー	ス	の	金	額	に	は	影	響	が	無	い	こ	と	
を	確	認	で	き	、	ま	た	他	の	機	能	の	総	合	テ	ス	ト	は	予	定	通	り	終	了	
し	た	。	し	か	し	、	こ	の	問	題	に	関	し	て	は	、	原	因	追	究	が	完	了	し	
た	と	こ	ろ	ま	で	で	3	月	中	旬	を	迎	え	て	し	ま	い	(	総	合	テ	ス	ト	が	
完	了	し	て	い	な	け	れ	ば	い	け	な	い	時	期	)	、	も	は	や	本	稼	働	予	定	日
ま	で	に	解	決	す	る	こ	と	は	難	し	い	状	況	と	な	っ	て	し	ま	っ	た	。		
2	.	2	対	応	策	の	検	討																	
	今	回	の	よ	う	に	、	大	詰	め	の	総	合	テ	ス	ト	で	問	題	が	発	生	し	、	
本	稼	働	予	定	日	ま	で	に	解	決	す	る	こ	と	が	難	し	い	ケ	ー	ス	で	は	、	
最	初	に	、	本	稼	働	の	延	期	が	可	能	か	ど	う	か	を	打	診	す	る	。	し	か	
し	、	今	回	の	場	合	は	、	4	月	1	日	の	新	商	品	の	販	売	開	始	と	い	う	
の	は	、	A	社	だ	け	で	な	く	、	販	売	代	理	店	各	社	に	も	ア	ナ	ウ	ン	ス	
し	て	い	る	た	め	、	状	況	的	に	本	稼	働	延	期	は	不	可	能	で	あ	る	。	そ	
う	な	る	と	、	次	に	考	え	る	こ	と	は	、	こ	の	課	題	を	抱	え	た	ま	ま	4	
月	を	向	か	え	本	稼	働	を	開	始	す	る	部	分	稼	働	が	可	能	か	否	か	で	あ	
る	。	具	体	的	に	は	、	課	題	解	決	ま	で	の	日	程	を	明	確	に	す	る	と	と	

も	に	、	影	響	範	囲	を	調	査	し	、	実	現	可	能	性	を	考	え	る	こ	と	で	あ
る																								
(1)	課	題	解	決	ま	で	の	日	程															
	原	因	追	究	ま	で	に	時	間	は	か	か	っ	た	が	、	課	題	を	解	決	す	る	方
法	に	つ	い	て	は	め	ど	が	た	っ	て	い	る	。	該	当	の	数	理	計	算	プ	ロ	グ
ラ	ム	の	誤	り	箇	所	の	修	正	し	、	金	額	の	数	値	チ	ェ	ッ	ク	を	行	う	。
但	し	、	そ	の	プ	ロ	グ	ラ	ム	の	計	算	結	果	を	利	用	し	て	、	画	面	・	帳
票	等	に	金	額	を	表	示	し	て	い	る	機	能	に	つ	い	て	も	確	認	テ	ス	ト	が
必	要	な	た	め	、	対	応	は	広	範	囲	に	わ	た	る	。	こ	れ	ら	の	事	情	を	勘
案	す	る	と	、	対	応	期	間	は	1	ヶ	月	間	必	要	と	な	る	。					
上	記	作	業	に	す	ぐ	に	と	り	か	か	れ	ば	、	4	月	中	旬	に	は	課	題	は	解
消	さ	れ	る	見	込	み	で	あ	る	。														
(2)	影	響	範	囲	の	調	査																	
	課	題	解	決	ま	で	の	期	間	が	明	確	に	な	っ	た	ら	、	続	い	て	影	響	範
囲	の	調	査	を	実	施	す	る	。	こ	の	影	響	度	に	よ	っ	て	、	対	応	策	は	大
き	く	左	右	さ	れ	る	か	ら	で	あ	る	。												

今回のケースでは、4月から2週間、この問題を抱えたまま運用すると仮定すると、該当ケースの解約の請求が発生した場合に当然金額の誤りが発生することになる。こうなると顧客や販売代理店に対する信用を失墜することとなり、A社にとってその影響は大きい。

**(3) 対応策の検討**

以上の分析結果から、4月初り該当ケースの解約請求があった部門よりA社及び弊社関係者に

**【プロマネの創意工夫の指摘】**  
 対応の内容について問題ございませんが、文章の表現が「処理することになった」と記載されており、プロマネが能動的に対応策を決定していないように読み取れてしまう可能性がございます。プロマネが能動的に対応策を検討したことが読み取れるような文章表現に変更されるとよりプロマネとして適切な対応を行った論文になると考えます。  
 (例)  
 「手作業にて処理するという代替案を検討した」

で手作業にて処理することになった。具体的には、A社

**【プロマネの創意工夫の指摘】**  
 本論文では、代替案の内容自体の評価もされますが、それよりもそういった代替案を混乱なく遂行するために、プロマネの視点からどのような工夫を行ったのか、という観点から評価が行われます。具体的には、A社の利用部門が代替手順を誤らずに実行できるようにマニュアルを作成した上でユーザ・トレーニングの期間を確保したとか、代替案のケースか否かの判断が難しい場合はすぐに問い合わせができるように暫定のヘルプデスクを設けたりするといった工夫です。こういった工夫を行うことで、代替案の採用による混乱を回避できると考えます。本論文で述べられているのは代替案の内容だけであり、その代替案を混乱なく円滑に実行するためのプロマネの視点からの論述が不足していると考えます。この点について追記することが必要だと考えます。

を再計算して各担当に連携再計算後の金額を用いて顧客等を行うという方法である、システム管理データの更るん、A社関係者には事情

と対応方法をしっかりと説明し、この2週間限定で理解



